

市長記者会見記録（案）

日時：2025年11月19日（水）14時00分～14時35分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和7年第4回川崎市議会定例会議案等について【総務企画局・財政局】

<内容>

【議題】

《令和7年第4回川崎市議会定例会議案等について》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。

本日の議題は、「令和7年第4回川崎市議会定例会議案等について」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いします。

【市長】 令和7年第4回市議会定例会の準備が整い、11月26日、水曜日招集ということで、本日告示をいたしました。

今定例会に提出を予定しております議案は、条例22件、事件20件、補正予算4件、報告1件でございます。

今議会の主な議案といたしまして、議案第219号から第222号は補正予算でございます。

このうち一般会計の補正予算の内容といたしましては、人事委員会勧告等を踏まえ、一般職及び特別職の給与費を増額するもの、学校給食の食材料費の高騰に対応するものなどでございまして、補正額は総額で52億円余を増額するものでございます。

なお、議案第180号並びに議案第219号及び第221号の補正予算は、職員の期末・勤勉手当の支給に関わることから、他の議案と分割し、先行議決をお願いするものでございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりであります。議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと思っております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。

なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、初めに幹事社様からよろしくお願いします。

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。

【東京（幹事社）】 今お話がありましてとおり、今回の一般会計の補正の中に、学校給食費の食材料費の高騰に対応する増額が盛り込まれていますけれども、もともと去年の今ぐらいに、物価高騰に合わせて給食費も毎年見直していくような制度に変えるということを

打ち出されて、今年度については市費でということになったと思うんですけども、当初に予定されていた値上がり分だけでは足りない、3億円分が必要になったという今の事態は、今、国のほうでもいろいろ動きあると思うんですけども、どのように受け止めていらっしゃるか、教えていただけますでしょうか。

【市長】 やっぱり食料品中心に物価高騰が予想以上に高くなっているということが、給食費でも大きな影響を受けているということを物語っているものだと思います。致し方なしということですね。

【東京（幹事社）】 また来年度以降、国の動きも踏まえて検討ということになるのでしょうか。

【市長】 そうですね。国の、報道ベースの話でありますけれども、無償化の動き、小学校の話と、額なんか出ていますけれども、到底物価高騰に迫いついていないというのもありますし、小学校だけではなく、中学校にも物価高騰の話というのは、かなり大きく影響してくると思いますので、その在り方というのは、今後非常に、どうしていくのかということ、厳しい局面だなと思っております。

【東京（幹事社）】 あと、議案のほうで、学校事故の詳細調査委員会を設置するための条例改正案が出ていますけれども、今回、こういうふうな詳細調査委員会を立ち上げなければならなくなる事態が起きたことと、それは以前にも会見で伺ってはいるとは思いますが、あと、発生自体は2年前で、教育次長が詳細調査を行いますということを議会でおっしゃってから、もう5か月たっているかなと思うんですけども、当事者の方にとっては時間がかかり過ぎている印象もお持ちなんじゃないのかなとは思いますが、市長としてのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 こういったものを、ちゃんと整備しておくべきだったんじゃないかというお声もあるというのは承知しておりますし、この際、しっかりと整備していくということができたということはいいいことだと思いますが、時間については、いろいろ御意見あるということに受け止めさせていただいております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

共同さん。

【共同（幹事社）】 幹事社の共同通信です。今の事故の詳細調査に関するもので、もちろん第三者委が実際に立ち上がってから改めて伺うことかとは思いますが、調査がどのように進んでいくといいなと思っていられるかというのを伺えますか。

【市長】 どのようなというよりも、この詳細調査委員会という形ですから、その目的どおりに、しっかりとスムーズに仕事ができることというのを期待しているわけでもありますけれども。

【司会】 では、幹事社様以外、御質問、よろしいでしょうか。

では、議題については以上とさせていただきます。

【市政一般】

《4期目にあたって》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。改めまして、幹事社様から、よろしくお願いします。

【東京（幹事社）】 改めまして、東京新聞です。よろしくお願いいたします。

今日から4期目の任期が始まったということで、改めまして、今の御心境をお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 選挙の翌日も、訓示というより、職員に対する訓示みたいなのがあったときにも申し上げたんですけれども、4期目になったからといって、人が変わるわけではないので、引き続きしっかりと緊張感を持って市政に当たるということだと思います。課題山積していますので、前にも言いましたとおり、自分たちだけで解決するのではなく、最適なパートナーをしっかりと見つけて、スピーディーに市民の期待に応えられるように仕事をしていくということに尽きるかなと思っています。

《労働会館改修工事等について》

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。先日、労働会館の改修工事について、完成予定の延期が13か月の延期ということと、工事費の増額についても出ましたが、期間については改築の場合よりも短く済むということでありましたが、費用面では改築とそんなに変わらなくなってきたしまっていて、今回、スケルトン改修にしたことによる制約というものに担当の皆さん苦しんでいるのかなという印象も持っていて、何となく市議会でのやり取りを聞いていても、みんなが本当は改築のほうがよかったんじゃないのと受け止めているような印象も持ち、ただ、市議のある方は、もうポイント・オブ・ノーリターンだというお話もありましたが、市長として、今こういう状況に至ったところでの、この労働会館をめぐる問題については、どのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 この話って、幾つか観点があると思っています。1つは、改築をしたときというのは、やはり期間が非常に、改修よりもはるかに長い時間、市民の皆さんに御迷惑をおかけするということは、もう当初から分かっていたことですので、そうした意味での判断ということと、これから公共工事をやっていくときに、こういったスケルトンということというのが、今もそうでしょうけれども、生かせるものは生かしていこうという世の中の流れというものに対してチャレンジをしていると。

ただ、そこには技術的な課題だとか、物すごくこれは件数が多いというような事例では、全国的に見ても少ない事例ですので、そういったチャレンジというものはあるのかなと思っています。

ただ、今回のことを参考にして、どういったやり方というのが本当にいいのかということとはしっかりと検証し、議論していくべきだとは思っています。

ただ、何といたしますか、大体金額同じぐらいだから、新しいものにしたほうがよかったんじゃないかという、その感情的な話だけでいいのかなというのは、しっかり議会だからこそ、

トータル的な議論というのをあるべき論と、そして選択肢として取り得る判断として、どうだったのかということは、これも検証されるべきだと思っていますし、絶えず私たちも幾つかの重要な決定に当たってのクライテリアというのも、ちゃんと皆さんに説明できるようにしていかなくちやいけないと思っています。

【東京（幹事社）】 今後のほかの公共施設の長寿命化に当たっての判断の教訓と言っているのか分らないですけれども、として、しっかり検証をしていくということ。

【市長】 そうですね。やはり新築よりも改修のほうが、違った意味でリスクが高まるという予見し得ない部分も出てくるということは今回の工事でも明らかになっているところがありますので、どこまで、その予見ができるのかというのは、今後こういう事例があったときに、より詳しく見ていかなければならないのではないかなというのは技術職ではない人間でも思うことだと思います。

【東京（幹事社）】 検証について、市議の方からは、専門家を含めた第三者委員会というお話もありましたけれども、あくまで市役所の内部での検証と、今お考えでしょうか。

【市長】 いや、議会のほうでどういうふうに言われているのかって、私は分かりませんが、あまり第三者を入れるほどなのかということは正直思います。

非常にこれ、一件一件課題が全部違うと言っても過言ではないと思いますので、このことを検証したからって、次のところで、その専門性がどう生きるのかというのは、はてというような気がいたします。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《市立小学校教諭の逮捕等について》

共同さん、どうぞ。

【共同（幹事社）】 共同通信です。前回の記者会見でもお尋ねしていると思うんですけれども、小学校の教諭が逮捕された事案で、本日、再逮捕という結果になり、被害者が1人じゃなくて2人だということも判明したところですが、改めて受け止めに伺えればと思います。

【市長】 大変遺憾なことでありまして、前回、逮捕のときにも申し上げましたが、学校って、本来子供にとって安全であるところ、安心できる場所であるはずのところ、こういった形で脅かされるということ、被害者のみならず、その学校の在籍の児童の皆さんも、あるいは保護者の皆さんも、途端にやっぱり精神的な負担含めて、影響は大きいんじゃないかなと思っています。

しっかりと捜査に協力するという形で、また、保護者への説明というのもしっかり行って、心のケアもしっかり整えていくということが大事かと思っています。

【共同（幹事社）】 前回の逮捕が2週間以上前になるんですけれども、今回の逮捕を受けて、何か追加で対応されるお考えだとか、教育行政として、どういうふうにしていくか、何か方針あれば伺いたいです。

【市長】 私も今回の再逮捕を聞いたのは、今日の午後の話でありまして、正直、教育委員

会としても、あまり情報が入ってきていないという、捜査中なので、あまり情報を持っていないということなので、今この事実だけで何か新しいものが、要素があるかといったら、そうではないと思いますので、しっかり事件の詳細というのを把握した上で対応に当たるべきかなと思っています。

【共同（幹事社）】 もう一個関連で、今回の被害者は、前回の事件の分の捜査の中で判明したようなんですけれども、なかなか、声を上げることだけが正解だとは思わないですが、今も、誰かに伝えたいけれども伝えられないとか、そういう思いの児童がいるかもしれない中で、何か市長として呼びかけたいことはございますか。

【市長】 いや、ぜひ、こういう形で届くかどうかあれですけれども、それでもやはり学校の先生や保護者に、あるいは第三者という形でも、保健の先生でも結構ですし、カウンセラーの方でも結構ですが、とにかく大人にまず相談してほしいと、そういう、ストレスの部分でもそうですし、もしかして、まだ被害が、遭っている子がいて、声が上げられていないのであれば声を上げてほしいと思いますし、その体制については、しっかりと整えていきたいと思いますし、教育委員会にも、そのようにお願いしたいと思っています。

《中国の日本渡航自粛について》

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。またちょっと話がかわって、中国が日本渡航への自粛呼びかけを行っている件で、市内にどのような影響が考えられるか、もし市長としてお考えあるようでしたら伺いたいのと、あと、友好都市の一つに中国の瀋陽市があると思います。こちらとの交流で、何か直近で変化が生じているようなことがあれば、教えていただきたいなと思います。

【市長】 瀋陽市とは特に変化はございませんし、一連のあれを見てますけど、あまり過剰に反応しないほうがいいのではないかなと思っています。ですから冷静に、国同士の話なので、それは見守るというコメントにさせていただきたいなと思っています。

【共同（幹事社）】 幹事社から以上です。

【司会】 では、幹事社様以外で。

朝日新聞さん、お願いします。

《特別市について》

【朝日】 どうもお疲れさまです。先般、特別市の法制化案を発表されまして、それでちょっと質問だったんですけれども、特別市になると道府県の区域外ということなので、これまでの県会議員の存在については不要という理解でよろしいのでしょうか。

【市長】 そうですね。不要という言葉がちょっとあれですけど、要するに県の区域外になるので、そこは当然、県会議員は誰を代表するのという形になるので、そこには存在しないという形になります。

【朝日】 一方で、都道府県議会の議決を評議会設定について設けているんですけれども、これ、かなりハードルが上げた格好になっているんですが、その都道府県議会の議決を必要とした理由について教えてください。

【市長】 この間のいろんな議論の中での話で、条文草案できているわけなんですけれども、例えばですけれども、私も県会議員のときに経験しましたけれども、相模原市が政令指定都市になるといったときも県議会の議決が必要でありましたし、当然、当該の、区域外になるのと区域内にとどまるのというのはやや性質は違うかもしれませんが、ただ、その当該の地域の住民の意思というのがはっきりした以上、議会でそれを覆すということというのは普通考えられないのではないかなと思っております。それが常識だろうと思います。

【朝日】 なるほど。都内での記者会見でも質問したんですけれども、維新が提出を考えている副首都構想の法律案に、特別市を、例えば設けることができるなどの条項を入れることについては、市長はどういうふうに思っているのでしょうか。

【市長】 この副首都構想の話が、やや大都市制度の話をしているようで、そうでないようでと言われたので、首都の、首都としての在り方で、副首都とは何かという話のものと、その副首都になるための状態というのは特別区というのが想定されているというようなことですので、2つの話が1つになってしまっている。

私たちは前にも、以前お話ししたと思うんですけれども、多極分散、要するに東京都一極集中だけではない世界をつくっていくということについては同一の考えを持っていると思いますし、特別区も多様な大都市制度の一つだと認識していますので、その大都市制度の中でしっかりと議論していく。特別市というのをしっかりと議論していくというのは、この機会を通じて、多くの市民の皆さんにも、国民の皆さんに知っていただいて、大都市制度の在り方を議論していくということはとても大事なことだと思います。

その話と副首都の在り方についてというのは、やや似たようなものですが、ちょっと性質の違うものなので、そこはしっかりと分けてではなくて、しっかり区分して、区分でも一緒か。何ていうんですかね。分けてしまうと2つの話になっちゃうような話になって、ニュアンスが違うんですけれども、ちゃんと整理して議論されるべきだと思います。

《政府の総合経済対策について》

【朝日】 分かりました。ちょっと話題変わるんですけれども、政府の総合経済対策の修正案なんですけれども、地方自治体が独自の施策に活用できる重点支援地方交付金に食料品の高騰対策に使う特別枠を設ける修正が入りまして、今後、自治体がメニューを選ぶような方向になりそうなんですけれども、現時点で何かお考えございましたら教えていただけないでしょうか。

【市長】 正直、いくらのお話をしているのかも分からず、ただ特別枠と言われても、一体重点交付金がいくらなの、その中の特別枠なのか、外の特別枠なのか、金額が全く見えない中で、何の話もできないだろうなと言っている中で、お米券だ何だと言っていることに非常に違和感を感じざるを得ないというのは正直なところですよ。早く早くと言っているけど、逆にこっちが早くと言いたい。ああいう、この数年間で、早くやれ、年内にまとめろみたいな話とかというのは、すごく多いんだけど、いや、そうじゃないですよ。早くしていただきたいのはこっちのほうで、その枠組みが決まらない限り、早くも何もないですよ。給

食費の無償化の在り方についても、何だと、ちょっと怒っております。

【朝日】 かしこまりました。ありがとうございます。すいません。

《労働会館改修工事等について》

【司会】 神奈川新聞さん、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞です。先ほどの市労働会館の話ですけれども、労働会館、スケルトンの話ですけれども、それにしても、大きな代償を払い過ぎたんじゃないかなと、結局、今の額とかを見ると思う人も多いと思うんですけれども、その点に対してというのは、市長はどのように。さっきの検証すればいい、もう起きちゃったからしょうがないんでしょうけれども、それにしてもちょっと高い勉強代というか、と受け取れてしまうんですけれども。

【市長】 いや、これは勉強代ではないです、間違いなく。一つ一つの選択を、間違えないような選択をしてきた中での、ある意味、予見ができなかった部分も含めて出てきたことですので、そこに対する説明というのはしっかりとしていかなければならないし、その責任があると思っています。

一方で、判断として、建て替えのほうが、改築のほうがよかったのかと。建て替えのほうがよかったのかといえば、いまだそういう判断にはなかったと思っていますし、ただ、先ほどお話ししたとおり、こういったケースというのが今後も出てくると、その選択に迫られるということは出てくるので、そこは今回、大規模なこういう形というのは、本市としても初めてだったということを受けて、しっかりと十分な検証がなされた上で、次の選択に生かしていくということだと思います。

単純に額が増えてしまいました、そのことに対しては非常に申し訳なく思っていますけれども、しかし、一つ一つの判断の中で、それが間違っているんだということではないと思います。ですから、説明責任を果たしていくということ自体、私たちはやっていかなくちゃいけないことであると思っています。

【神奈川】 そうすると、最終的には、何らかの形で報告書みたいなものを出して庁内に共有していくみたいなイメージでは今のところではいるんでしょうか。

【市長】 報告書という形なのか、とにかく、でも、こういう、何というか、どういう観点に気をつけようとか、どういう見方をしていくんだ、あるいはチェックをしていくんだということというのは、今回でも明らかになった点があると思いますので、そこが今の担当者だけじゃなく、次にも引き継がれるためには、どういうやり方がいいのかなというのは、それは担当局の中でしっかりと検討していると思います。

【神奈川】 ありがとうございます。あと、先ほどの特別市の話で、今日の午前中に、市民アンケートの回答、1,500人分の回答が公表されたんですけれども、その中で、特別市知ってる、名称知ってる、内容知ってる、何も知らないで、61.7%の人が知らないと答えたことに関しては、市長、率直に今の段階でどういうふうに受け止めていますか。

【市長】 今そういう感じかなという、実に素直に受け止めているという実態で、昨年よりもかなりパーセンテージ上がっているということと、やっぱり制度物ってなかなかあれだ

なと思うのは、前回の川崎市が政令指定都市であることを知っているという方も7割以下、今回7割ちょっと超えましたが、ということなので、えっと、普通に考えたら小学校で習うだろうと思うぐらいですけれども、それでも制度物というのは、なかなか。というのは、あとの3割の方は政令指定都市が何かということも考えたこともないのか、あるいは知らないということですから、そういう中で制度論をやっていくって本当に難しいことでもありますけれども、それでもやらなければならないことはやらなくちゃいけないので、知ってるか知らないかということが問題ではなく、やらなければならないことをやるだけということだと思います。

【神奈川】 とはいえ、この間の報告書の中でも、条例の中で、住民投票、先ほども話されていましたが、結局、市民の後押しというのが最も大切だと市長もずっとおっしゃられている中では、今後はどういうふうに、何かこう。

【市長】 そうですね。やはり法制化という形で、先ほど副首都構想の話出てきましたけれども、当然この話をしますと、特別市、大都市の在り方という、この前の指定都市紹介でも、自治体の再構築をしなくちゃいけないという話というのは出てまいります。そういった中で、初めて皆さんが、そうなのかという機運も醸成してくるでしょうし、そこに対して、私たちがしっかりと説明していくと。ですから両軸で回していくことだと思います。法制化を、まず一刻も早く進めることと、当然、最終的には住民投票という形になりますので、そこに向けてはしっかりとお伝えしていくということ、これまで以上にやっていくということだと思いますので、まずは今の知っていただくというよりも、とにかく法制化に向けての力のところに、ある意味、全てをかけていくといったところに注力していきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

《特別市について》

【司会】 時事通信さん、お願いします。

【時事】 時事通信社です。また特別市の話なんですけれども、先ほどの流れですね。今回、報告書をまとめられて、お疲れさまでした。お疲れさまでしたけれども、これからが本番だと思いますけれども、その中で、今後、要請ということですが、政策提言というような、結構強いような感じでやられていくかと思うんですけれども、まず直近で、ここに行くというのは予定決まっていますか。まだこれからということでしょうか。

【市長】 直近の予定ですと、昨日も経団連の事務総長のところに行ってまいりまして、説明をしてきたということもそうですし、あれ、東京、市長会あったのいつでしたっけ。17日。17日、指定都市市長会終わった後にも、~~政令指定都市長~~を応援する国会議員の会会長の逢沢先生のところにもお伺いして、今後の取組のことについても相談したので、そういった意味では早急に国、そして総務省をはじめとしたところと、高市総理のところにも早めに行っていこうということにもなりました。各政党への働きかけというのもしっかりと行っていくということ、私たちがやっていくということを確認させていただいた。

【時事】 今後は首相はじめ、いろんな関係省庁に働きかけていくということで。

【市長】 はい。省庁と、それから各政党ですね。

【時事】 各政党にもですね。

【市長】 はい。

【時事】 分かりました。

すいません。以上です。

【市長】 ありがとうございます。

《クマ等への対応について》

【司会】 産経さん、お願いします。

【産経】 産経新聞です。全く話題が違って、念のためにお伺いしたいんですけれども、川崎に野生のクマが出没する可能性というのはないということによろしいのでしょうか。

【市長】 うーん。イノシシが多摩川河川敷を伝ってくる時代ですからね。今、本当に何が起ころうとも、ないということはないんだと思うんですけど、なかなか、うーん。可能性としては限りなく低いのではないかなと思ってますけど。さすがにね、いろんなところを渡ってこなくちゃいけないので。とはいえ、イノシシも出たことですから、気をつけていかなければならないと思います。

【産経】 取りあえず生息はしていなくて、今のところ特別な対策はしていないということによろしいですか。

【市長】 はい。

【産経】 ありがとうございます。

【司会】 東京新聞さん、お願いします。

【東京（幹事社）】 すみません。クマの関係で、八ヶ岳とか、自然教室関係への影響とかは、今のところ問題なく、プログラムを予定どおり屋外で行われているとか、そういうこと、何か把握されていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 いえ。教育委員会の、今いろんなところに、要は場所を、八ヶ岳ではなく、他の地域でということで実施している、あるいはこれからしようとしている学校というのが数多く、手挙がってきています。一番懸念しているというのが、あそこ、クマの問題でして、クマの影響について、教育委員会としても非常に危機感を持っていて、情報収集に努めているという段階にあります。

【東京（幹事社）】 例えば、愛川なんかだと、町内にはもうクマの出没情報とか出ていると思うんですけど、だからといって、ふれあいの村に行くのはやめようみたいな話にはならないですね。

【市長】 まだ、そこまでに至っているとは聞いていませんが、デイリーで本当にそういう情報収集と、どうやって安全に行ってもらおうかということについて考えていると、その報告は受けています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

【市長】 補足ありますか、教育委員会からありますか。大丈夫？

【司会】 よろしいですか。

では、朝日新聞さん、お願いします。

【朝日】 すいません。どうも、朝日新聞です。イノシシが北部に出たときは、結局、駆除されたんでしょうか。それとあと、川崎市にクマ、イノシシが出て、ハンターに依頼して自治体駆除というのは、猟友会との関係もあるので、可能なんでしょうか。

【市長】 まず、イノシシについては、見つかった状態で、かなり瀕死の状態であったと、多摩区で見つかったときに。それに対して麻醉銃で、ある意味、ほぼ駆除という形ではなかったような形で聞いておりますけれども、ほぼ厳しい状態だったところを麻醉銃を撃って死んだという形で聞いていますので。

それと、猟友会との関係というのは、すいません、事務方でもいいですか。僕、ちょっと分かってない部分があります。

多分、いないか。そうですね。

【朝日】 猟友会って、存在しているんですか。

【市長】 どうでしょう。神奈川県の猟友会、1人、個人として参加している方はいらっしゃるかと思いますけど、川崎市の猟友会というのは存在していないと思います。

【朝日】 一応、川崎市として、組織として、猟友会組織に頼んで、自治体駆除に川崎市内で展開してもらうことは手続上できるんでしょうか。

【市長】 仕組みとしては可能なんだろうけれども、そのあたり、確認しておきます。

【司会】 それは後ほど確認して、こちらのほうから。

【朝日】 すいません。何か、お手数かけます。すいません。

【司会】 ほかに御質問よろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当